



令和8年 9月25日(金)
石垣市立白保小学校
TEL: 86 - 7840
FAX: 86 - 7396

本・人・すべての出会いに感謝の心を！

2015年以来、11年ぶりに5連休となった9月の「シルバーウィーク」このめったにない連休を利用して、夏休みにできなかった帰省を？年ぶりにしてきました。内地ではお彼岸のシーズンで、ご先祖様を供養し感謝の気持ちを捧げる期間と言われています。遠く離れて暮らしていると、なかなか会えない親や自分の命をつないでくれたご先祖様に感謝するという習慣が薄れている自分に恥ずかしながら気が付きました。日々の日常に起こるすべての出来事に感謝の心を忘れずに過ごしたいものですね。ちなみに次のシルバーウィークは2032年の6年後だそうです。

読む子は育つ！！

「どんなに素晴らしい国語の授業を受けていても本を読む習慣がないと意味がない。」言い過ぎではなく、これは本当に的を射ています。どんなに質の高い国語の学習をしても、日々読書で得られる読解力や想像力、語彙力、コミュニケーション能力にはかなわないことを示しています。読書することで他人の感情や自分以外の人間の様々な視点まで学べるのですから、読書は人間関係のトラブルを避けるのに有効な手だての一つと言えるでしょう。

本を読む子は学力が高く、学力の高い子は本を読んでいます。この2つはかなり相関性が高いという報告もあります。すなわち、できるだけ早いうちに子どもが自力で本を読む習慣をつけることが国語力の形成に向けて何より大切なことなのです。

天才子役としてブレイクした芦田愛菜さんは、幼少期から読書習慣があり、小2のころには東野圭吾さんの小説を読んでいたそうです。できるだけ早い年齢で自ら本を読むことは、人生レベルで大きなアドバンテージとなるでしょう。

日本の子どもは、どれくらい本を読んでいるのでしょうか？全国学校図書館協議会によると、小学生の1ヵ月平均は12.1冊だそうです。(2025年5月 調査対象:4～6年)

しかし、ほとんど本を読まない子に読書をさせるのは至難の業です。そのための一歩として、「読み聞かせ」があります。周りの大人がたくさん読み聞かせをすることで、本の中のお話や絵を目や耳や心を使って想像力を膨らませながら聴くことで、本に対する興味もわいてきます。子どもが大きくなっていても大丈夫です。6年生の教室でも日々読み聞かせをしている先生も中にはいます。

読み聞かせは定期的に行われることが望ましいそうです。定期的に行うことで、子どもは本に対する興味や関心を高め、読書への習慣を養ってあげることができます。読み聞かせを続けることで読解力や想像力、共感力を養うことができ、そのうえ家族のきずなを深めることもできるのです。

(坂本良晶著:「小学校最強ライフハック」より一部抜粋)

白保消防団員との協力で行った火災避難訓練

18日、白保消防団員(嘉弥真さん、石塚さん)を含む4名のご協力の下、避難訓練を行いました。子どもたちは誰一人あわてたりふざけたりすることなく、落ち着いて避難できました。

消火器の使い方や逃げ遅れた時に煙を吸わないために姿勢を低くして逃げるなど、日頃からの備えや

訓練の大切さについて学ぶことができました。(画像は昨年度のもの)



10月の行事予定



1日(木)市教職員研修会(4校時授業)

7日(水)6年シュノーケリング体験

PTA 拡大役員会 18:30

8日(木)さぶっこ食堂⑨ 7:30 オープン

12日(月)スポーツの日(公休日)

17日(土)PTA 美化作業(9:00～11:00)

23日(金)運動会会場設営(5校時)

PTAによる会場設営(17:00～)

24日(土)運動会

26日(月)振替休日

31日(土)運動会予備日

※ハP連ソフトバレーボール大会



ふくぎの会の皆さんによる読み聞かせ

17日朝、白保「ふくぎの会」の皆さんによる読み聞かせがありました。また、同じ日には移動図書館の「こっかあら号」もやってきて、この日は多くの子が本を借りていきました。心に残る良い本との出会いがあるといいですね。

